

令和4年度  
関市景気動向・求人状況調査

結果報告

関市 産業經濟部 商工課

# 令和4年度 関市景気動向・求人状況調査 結果報告

関市 産業経済部 商工課

## ☆調査目的

関市の地場産業である刃物製造業をはじめ関工業団地、関テクノハイランド内の企業のほか市内の様々な業種の製造企業を中心に、建設業、福祉業、小売業などの産業を調査対象とし、産業振興施策・雇用推進施策の参考とする。選定した10企業については、関商工会議所と協力して訪問調査を実施し、景気動向の現況や求人状況などの聞き取りを行った。

令和5年2月

☆調査期間 訪問・郵送調査 令和4年9月14日～10月28日

## ☆調査対象

432事業所

- ・市内製造企業 417事業所
- ・市内製造業以外の企業 15事業所

▶訪問調査 10事業所（従業員50人以上の事業所を中心とした各業種別主要企業）

▶郵送調査 422事業所

※訪問調査対象の10事業所のうち、訪問の受け入れ不可事業所は郵送調査に変更

☆回収率 51.4%（222事業所）

- ・刃物関係製造事業所 33事業所（対象 63事業所）
- ・金属関係製造事業所 101事業所（対象 181事業所）
- ・金属以外製造事業所 83事業所（対象 172事業所）
- ・製造業以外の事業所 5事業所（対象 15事業所）

※前年＝（調査期間）令和3年10月13日～10月29日、（回答）264事業所（対象433事業所）

※報告中の構成比については、小数点第一位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

## ☆調査結果総括

### ◎売上は前年とほぼ同様でやや増加傾向。原材料費高騰の影響あり。

売上増と回答する企業が全体で 111 社・50%(前年 141 社・52%)、売上減と回答した企業が 76 社・37%(前年 88 社・34%) と前年とほぼ同様の結果となった。

内容としては、前年に挙げられた新型コロナウイルス感染症の影響からの受注回復に加え、原材料高騰に伴った売上高の増加も挙げられた。

### ◎売上高と比較して収益の増加は緩やか。燃料費、原材料費高騰により収益を圧迫。

収益増と回答した企業は 71 社・32%(前年 106 社・43%) と減少し、収益減と回答した企業は 102 社・47%(前年 92 社・37%) と増加している。

収益増の回答数は、売上高増の回答数と比べて少なく、燃料費、原材料費高騰により売上高ほど収益が増加していない企業が目立っている。

### ◎仕入価格は、95%が上昇・やや上昇と回答し、今後も上昇傾向が続く予想。

仕入価格が上昇・やや上昇と回答した企業が 95%となっており、原材料価格の上昇が非常に深刻である。過年の新型コロナウイルス感染症の影響に加え、ロシア・ウクライナ情勢の影響も加わり先行きが不透明な状況である。燃料費、原材料費の高騰が続き販売価格への価格転嫁が追い付いていないといった声も聞こえた。

今後の見通しも仕入価格、販売価格ともに上昇傾向が続くことが見込まれるが、仕入価格の上昇と比較して販売価格の上昇が緩やかであり、販売価格への転嫁が経営上の大きな問題点となっている。

### ◎景況感は、悪化・やや悪化の割合が増加し、今後も継続すると予想。

景況感については、好転と回答した企業が 55 社・26%(前年 81 社・33%) と減少。また、悪化と回答した企業は 89 社・43%(前年 88 社・36%) と増加している。

先述の仕入価格の上昇や光熱費等の高騰により収益が圧迫され、悪化と回答する企業がある一方で、コロナの影響からの回復があり好転と回答した企業が一部あった。

今後の見通しについては、3 割の企業は現状維持と回答、4 割の企業は悪化すると回答しており、原材料及びエネルギー価格の高騰を懸念するなど今後の景況を慎重に判断している。

### ◎高卒採用 180 人、大卒採用 91 人で高卒、大卒採用ともに増加。

製造業の調査回答企業 222 社のうち令和 4 年には 61 社・27%で 290 人を採用している。前年は 250 社回答のうち 59 社・24%で 267 人の採用状況と比較すると、前年より採用人数は増加している。

令和 4 年に高等学校の卒業生を採用した企業数は 50 社、採用人数は 180 人（前年 57 社・174 人）で、前年と比較し増加している。

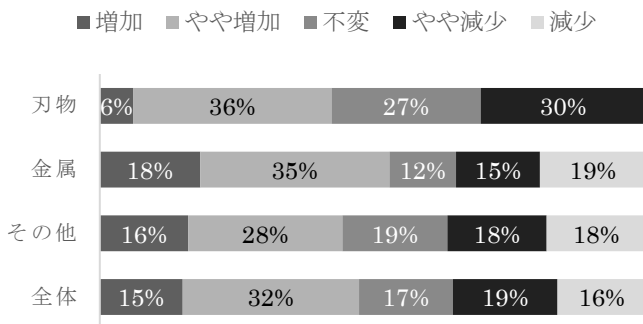
正社員・パート・派遣等の割合は前年と比較して正社員の割合が減少し、パートの割合が増加している。

### ◎経営上の問題点は、「原材料高」が最多。次に「従業員高齢化」「従業員不足」「人材育成」「人件費増加」が挙げられた。

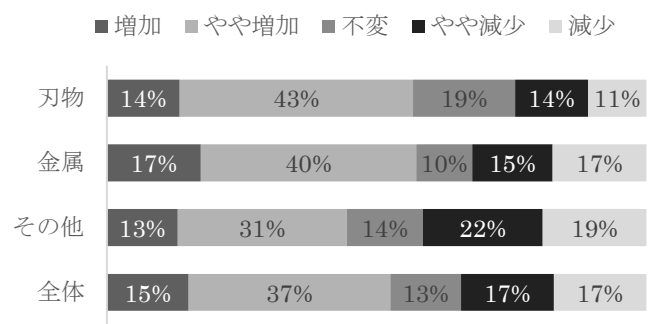
経営上の問題点は「原材料高」が 74%と最も多く挙げられた。次いで、「従業員高齢化」が 37%、「従業員不足」が 36%、「人材育成」が 33%、「人件費増加」が 28%となっている。「原材料高」は 74%(前年 55%)と大幅に増加しており、コロナ禍及びロシア、ウクライナ情勢による世界的な原油・原材料の価格が高騰していることが影響している。

## ☆調査結果各種データ

### ★売上高(現況 前年と比較して)



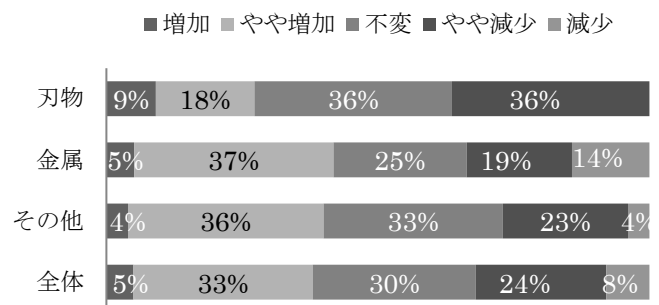
### ★売上高(前年の回答)



### ★売上高(業種別件数、現況 前年と比較して)

業種区分	増加	やや増加	不変	やや減少	減少
刃物	2	12	9	10	0
金属	18	34	12	15	19
その他	13	23	16	15	16
製造業合計	33	69	37	40	35
製造業以外	1	1	2	0	1
総合計	34	70	39	40	36

### ★売上高(今後の見通し)

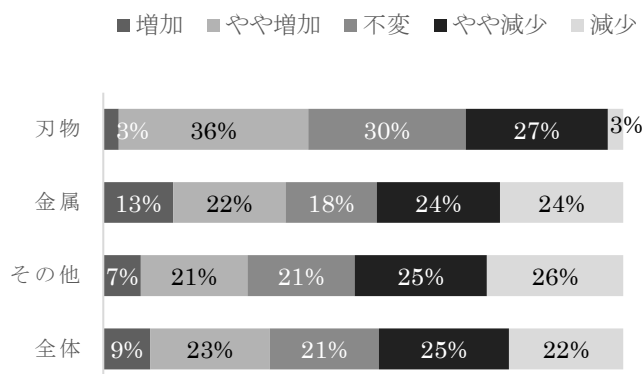


◎売上は前年とほぼ同様でやや増加傾向。原材料費高騰の影響あり。

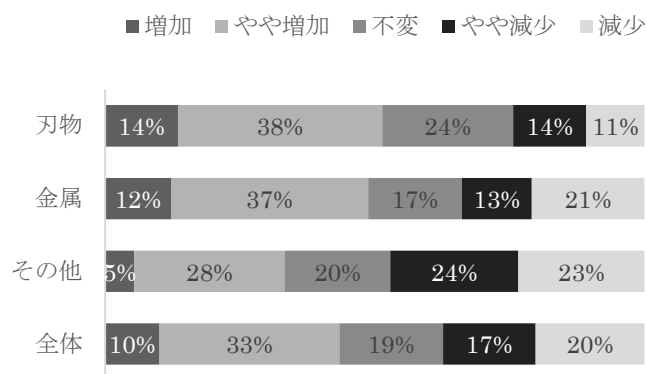
売上増と回答する企業が全体で104社・50%(前年141社・52%)、売上減と回答した企業が76社・35%(前年88社・34%)と前年とほぼ同様の結果となった。

内容としては、前年に挙げられた新型コロナウイルス感染症の影響からの受注回復に加え、原材料費高騰に伴った売上高も増加も挙げられた。

### ★収益(現況 前年と比較して)



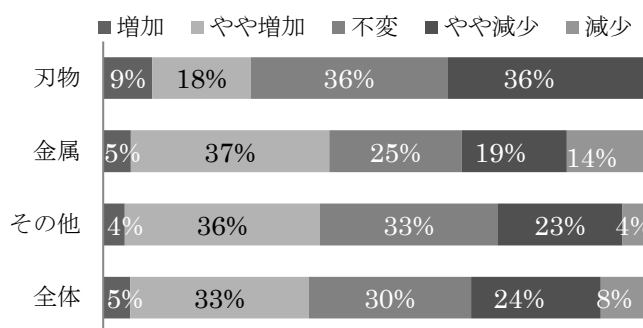
### ★収益(前年の回答)



### ★収益(業種別件数、現況 前年と比較して)

業種区分	増加	やや増加	不変	やや減少	減少
刃物	1	12	10	9	1
金属	13	21	17	23	23
その他	6	17	17	21	22
製造業合計	20	50	44	53	46
製造業以外	0	1	1	1	2
総合計	20	51	45	54	48

### ★収益(今後の見通し)



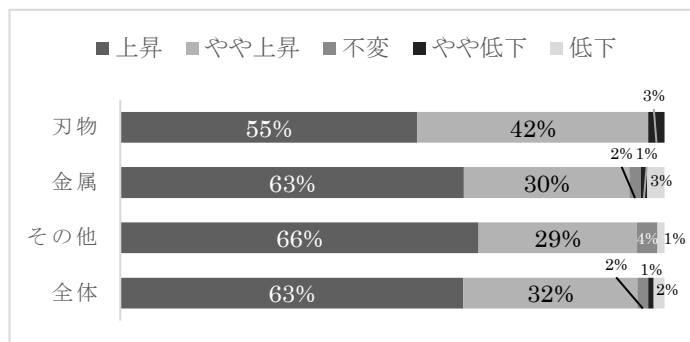
◎売上高と比較して収益の増加は緩やか。燃料費、原材料費高騰により収益を圧迫。

収益増と回答した企業は71社・32%(前年106社・43%)と減少し、収益減と回答した企業は102社・47%(前年92社・37%)と増加している。

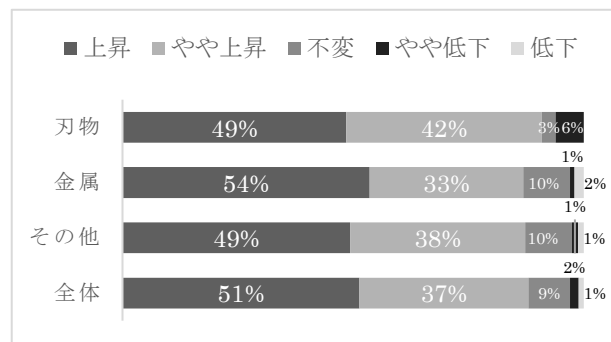
収益増の回答数は、売上高増の回答数と比べて少なく、燃料費、原材料費高騰により売上高ほど収益が増加していない企業が目立っている。

今後の見通しについては、今年度よりも改善されると回答した企業が多く、次年度以降の収益回復が期待される。

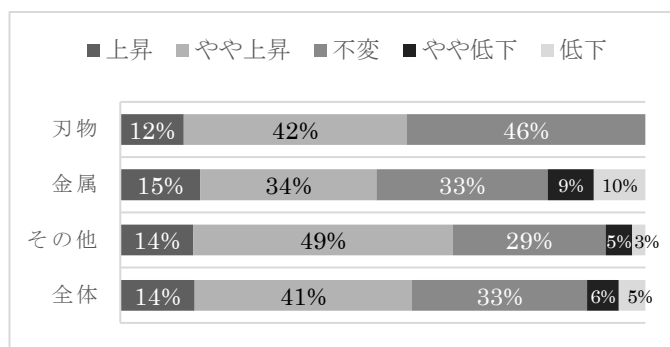
### ★仕入価格(現況 前年と比較して)



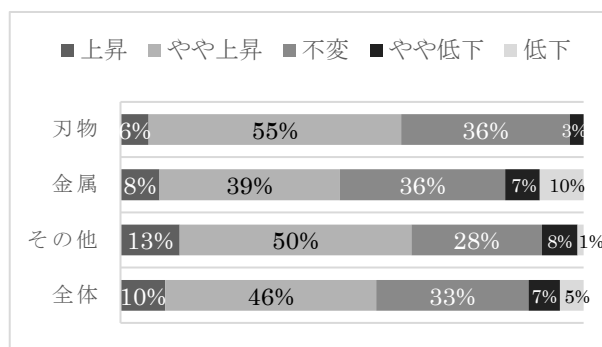
### ★仕入価格(今後の見通し)



### ★販売価格(現況 前年と比較して)



### ★販売価格(今後の見通し)



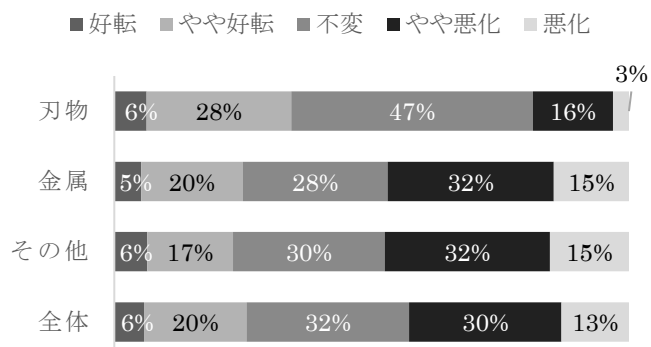
◎仕入価格は、95%が上昇・やや上昇と回答し、今後も上昇傾向が続く予想。

◎販売価格の上昇は仕入価格と比較して控えめ。原材料費等の価格転嫁が課題。

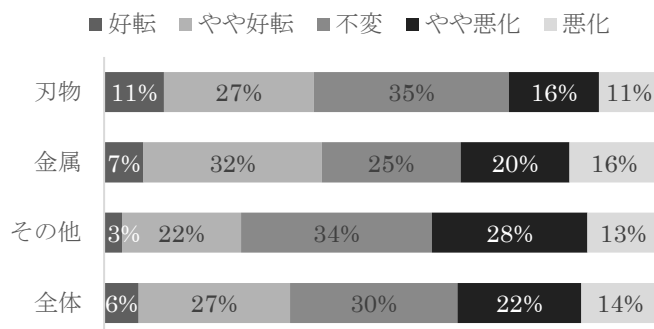
仕入価格が上昇・やや上昇と回答した企業が95%となっており、原材料価格の上昇が非常に深刻である。過去の新型コロナウイルス感染症の影響に加え、ロシア・ウクライナ情勢の影響も加わり先行きが不透明な状況である。燃料費、原材料費の高騰は続き販売価格への価格転嫁が追い付いていないといった声も聞こえた。

今後の見通しも仕入価格、販売価格ともに上昇傾向が続くことが見込まれるが、仕入価格の上昇と比較して販売価格の上昇が緩やかであり、販売価格への転嫁が経営上の大きな問題点となっている。

★業界景況感(現況 前年と比較して)



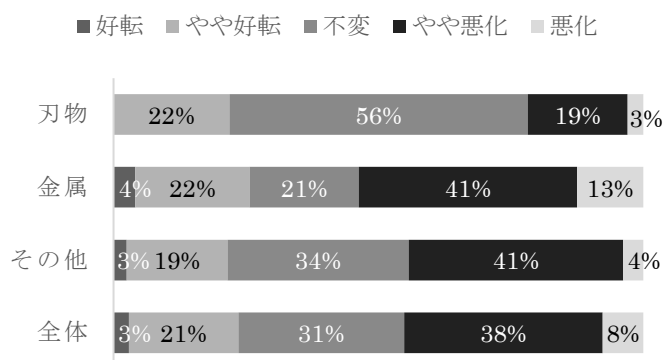
★業界景況感(前年の回答)



★業界景況感(業種別件数、現況 前年と比較して)

業種区分	好転	やや好転	不変	やや悪化	悪化
刃物	2	9	15	5	1
金属	5	19	27	31	14
その他	5	13	23	25	12
製造業合計	12	41	65	61	27
製造業以外	0	2	2	1	0
総計	12	43	67	62	27

★業界景況感(今後の見通し)



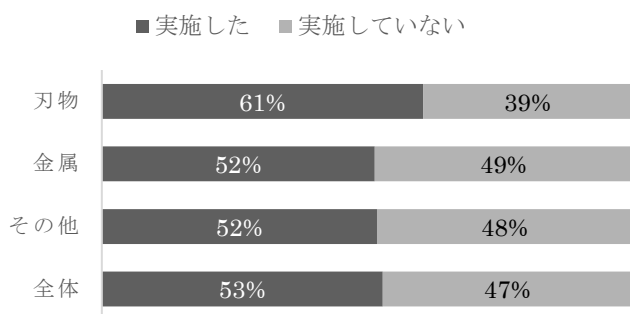
◎景況感は、悪化・やや悪化の割合が増加し、今後も継続すると予想。

景況感については、好転と回答した企業が55社・26%(前年81社・33%)と減少。また、悪化と回答した企業は89社・43%(前年88社・36%)と増加している。

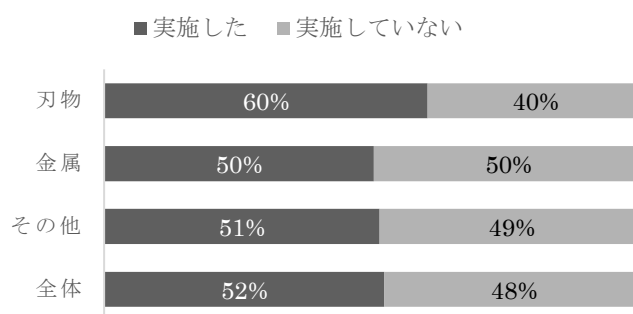
先述の仕入価格の上昇や光熱費等の高騰により収益が圧迫され、悪化と回答する企業がある一方で、コロナの影響からの回復があり好転と回答した企業が一部あった。

今後の見通しについては、3割の企業は現状維持と回答、4割の企業は悪化すると回答しており、原材料及びエネルギー価格の高騰が懸念されている。

## ★設備投資(現況)

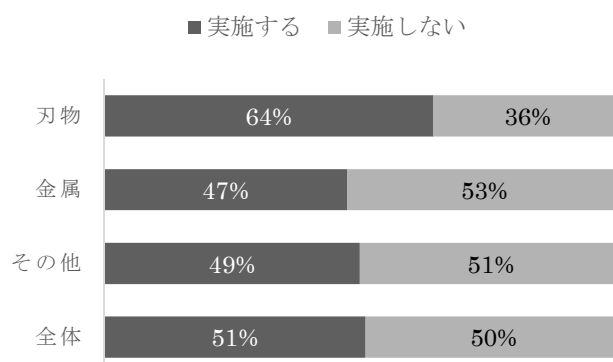


## ★設備投資(前年の回答)



業種区分	実施した	実施していない
刃物	20	13
金属	50	47
その他	42	39
製造業合計	112	99
製造業以外	3	2
総合計	115	101

## 設備投資(今後の見通し)

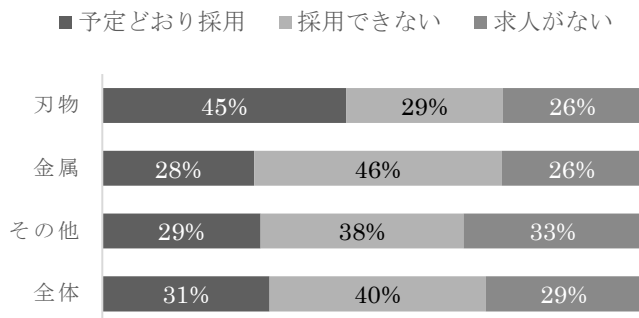


◎設備投資実施企業は、112社(53%)。

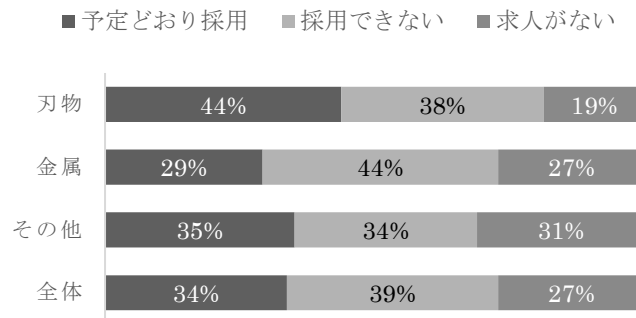
設備投資を実施した企業は112社、53%(前年124社、52%)で、前年より僅かに増加した。業種別には、刃物関係が20社(61%)、金属関係が50社(52%)、その他製造が42社(52%)であった。



### ★求人採用状況(現況 前年と比較して)



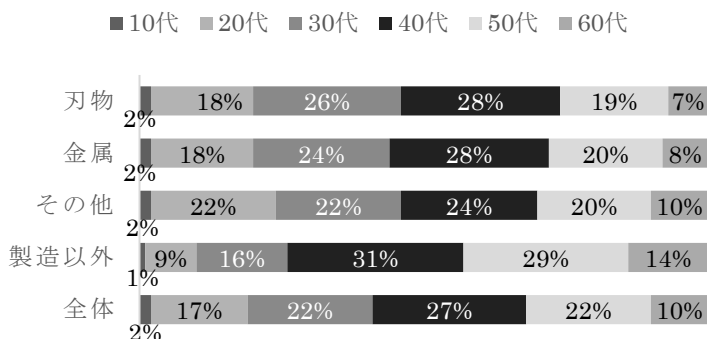
### ★求人採用状況(今後の見通し)



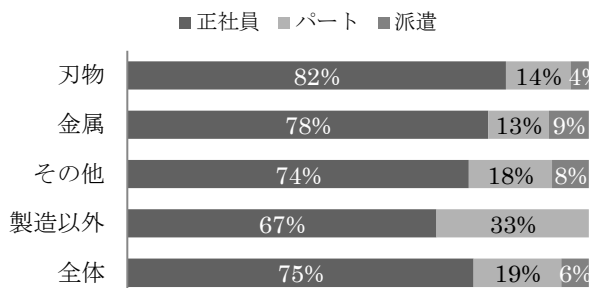
### ★求人採用状況(業種別件数、現況 前年と比較して)

業種区分	予定通り採用	採用できない	求人がない
刃物	14	9	8
金属	27	44	25
その他	21	27	24
製造業合計	62	80	57
製造業以外	2	3	0
総合計	64	83	57

### ★正社員の年齢別構成



### ★正社員・パート・派遣の割合



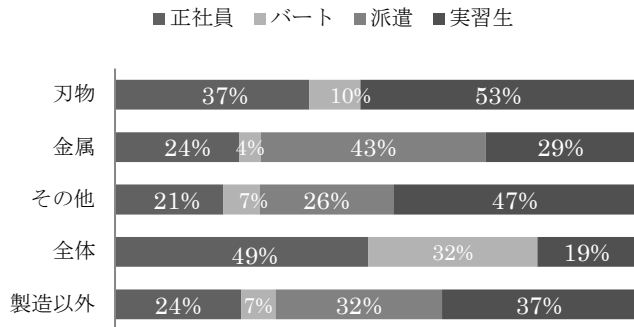
### ◎求人は全体的に採用難。

求人採用状況は、予定通り採用と回答した企業が 64 社・31%となり、採用できないと回答した 83 社・40%を下回った。

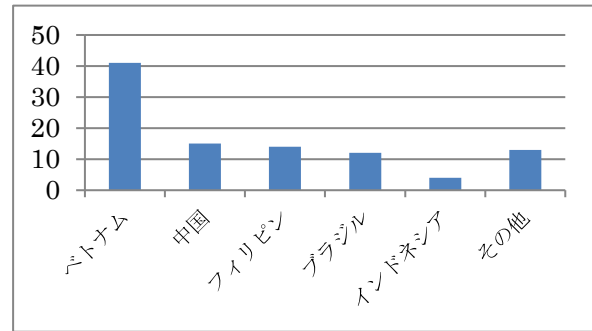
聞き取りでは、新型コロナウイルス感染症の影響から求人をしていなかったが、今年度から求人を再開したといった企業もあった。ハローワーク管内の有効求人倍率は令和 2 年 1 月からの新型コロナウイルス感染症の影響による落ち込みから回復し、1.6 倍前後で推移している。

正社員・パート・派遣等の割合は前年と比較して正社員の割合が減少し、パートの割合が増加している。

★外国人の雇用状況



★外国人の国別就労事業所数



外国人雇用状況は、新型コロナウイルス感染症の影響による入出国制限が徐々に緩和され、昨年より採用人数は増加している。

製造業全体では、正社員としての雇用が49%と前年30%と比較して大幅に増加している。

★新規学卒者等の雇用状況（令和4年4月採用実績）

区分	令和4年 学卒採用（人）					
	事業所数 (割合)	高卒	専門 学校卒	短大卒	大卒	合計
刃物	9/33 27%	23 (7社)	3	0	14	40
金属	29/101 29%	84 (21社)	6	1	58	149
その他	19/83 23%	62 (18社)	3	4	12	81
製造業 以外	4/5 80%	11 (4社)	1	1	7	20
合計	61/222 27%	180 (50社)	13	6	91 (25社)	290

区分	令和3年 学卒採用（人）					
	事業所数 (割合)	高卒	専門 学校卒	短大卒	大卒	合計
刃物	7/37 19%	20 (8社)	0	0	7	27
金属	31/117 26%	86 (29社)	12	3	48	149
その他	21/96 22%	68 (20社)	5	3	15	91
製造業 以外	9/14 64%	29 (8社)	5	11	44	89
合計	59/250 24%	174 (57社)	17	6	70	267

★新規学卒者等の雇用状況（令和5年4月採用予定）

区分	令和5年 学卒採用（人）予定					
	事業所数 (割合)	高卒	専門 学校卒	短大卒	大卒	合計
刃物	12/33 36%	21 (10社)	1	3	18	43
金属	30/101 30%	87 (28社)	6	3	75	171
その他	18/83 22%	57 (16社)	3	0	11	71
製造業 以外	3/5 60%	1 (1社)	0	3	8	12
合計	63/222 28%	166 (55社)	10	9	112	297

★高等学校卒業者の状況別卒業生数

	大学進学率（%）		就職率（%）	
	岐阜県	関市	岐阜県	関市
H31	55.3	45.8	23.9	40.6
R2	56.1	49.1	23.4	37.4
R3	57.3	48.8	22.2	35.3

※出典：文部科学省 学校基本調査より

◎高卒採用180人、大卒採用91人で高卒、大卒採用ともに増加。

製造業の調査回答企業222社のうち令和4年には61社・27%で290人を採用している。前年は250社回答のうち59社・24%で267人の採用状況と比較すると、前年より採用人数は増加している。

令和4年に高等学校の卒業生を採用した企業数は50社、採用人数は180人（前年57社・174人）で、前年と比較し増加している。

高等学校卒業生の進路別状況においては、進学率が上昇し就職率が低下する傾向があるため、高卒人材の確保は今後も困難になることが予想される。

令和5年の学卒採用予定の状況は、全国的には令和5年3月卒業見込みの大学生の就職内定率（令和4年12月1日現在）は84.4%と、前年同時期を1.4ポイント上回っている状況の中、関市内企業では63企業で297人の採用予定としており、昨年回答の令和4年度採用予定の64企業で275人より増加している。

★インターンシップの受入れ状況

◎受入れ可能・見学のみ可能企業

区分	可能	見学のみ	合計	割合(%)
刃物	5	1	6/32	19%
金属	32	8	40/89	43%
その他	24	2	26/67	33%
製造業以外	1	0	1/3	20%
合計	62	11	73/188	35%

◎受入れ人数別の企業数

区分	1人	2人	3人	4人以上
刃物	0	2	1	2
金属	3	15	2	7
その他	6	8	3	2
製造業以外	0	0	1	0
合計	9	25	7	11

◎受入れ日数別の企業数

区分	1日	2日	3日	4日	5日以上
刃物	1	3	3	0	0
金属	4	5	4	0	11
その他	4	5	1	1	7
製造業以外	0	0	0	0	1
合計	9	13	8	1	19

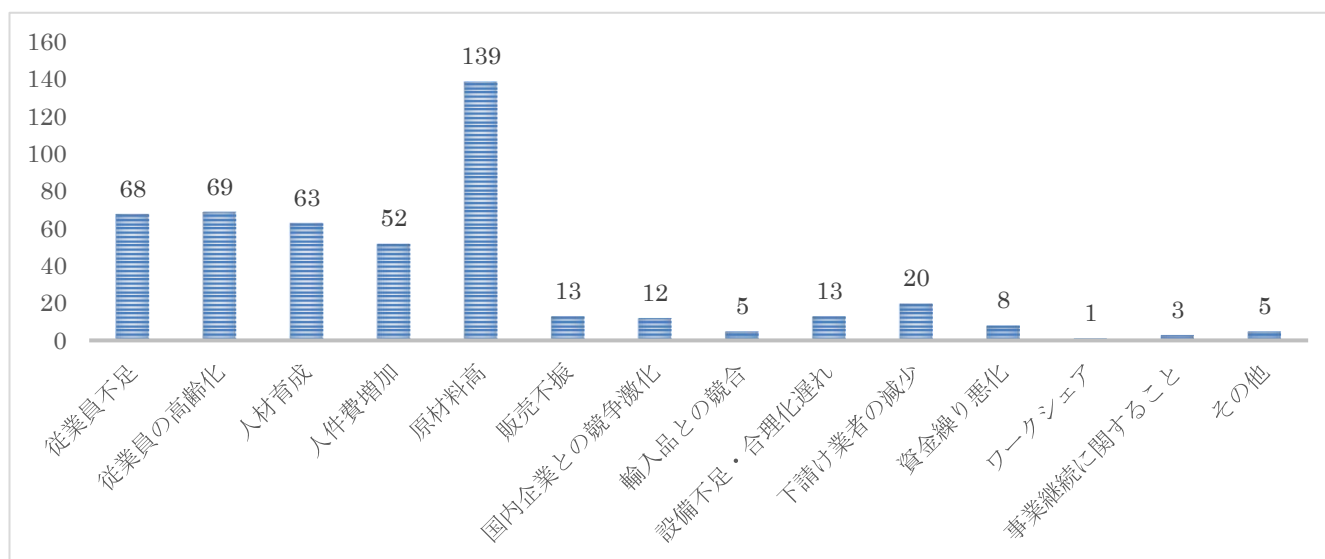
◎インターンシップ受入れ可能企業は、73社（35%）。

高校生や大学生のインターンシップは、受入れ可能と回答した企業が62社、見学のみ可能が11社の合計73社（35%）であった。受入れ条件については、人数は2人、日数は2日または5日以上と回答した企業が多い。これまでにインターンシップの受入れ実績がない企業の中にも、今後受入れの検討をしたいと回答した企業は46社あった。採用活動にインターンシップで取得した情報が利用可能になることや、大学等でインターンシップを単位認定するなど、採用活動を取り巻く状況は大きく変化しているため、企業側が対応に苦慮している意見もみられた。

また、コロナ禍でインターンシップの受け入れを中断している企業もあり、今後の状況によっては受け入れ企業が増加することが見込まれる。

★経営上の問題点（複数回答可）

※回答企業数 189



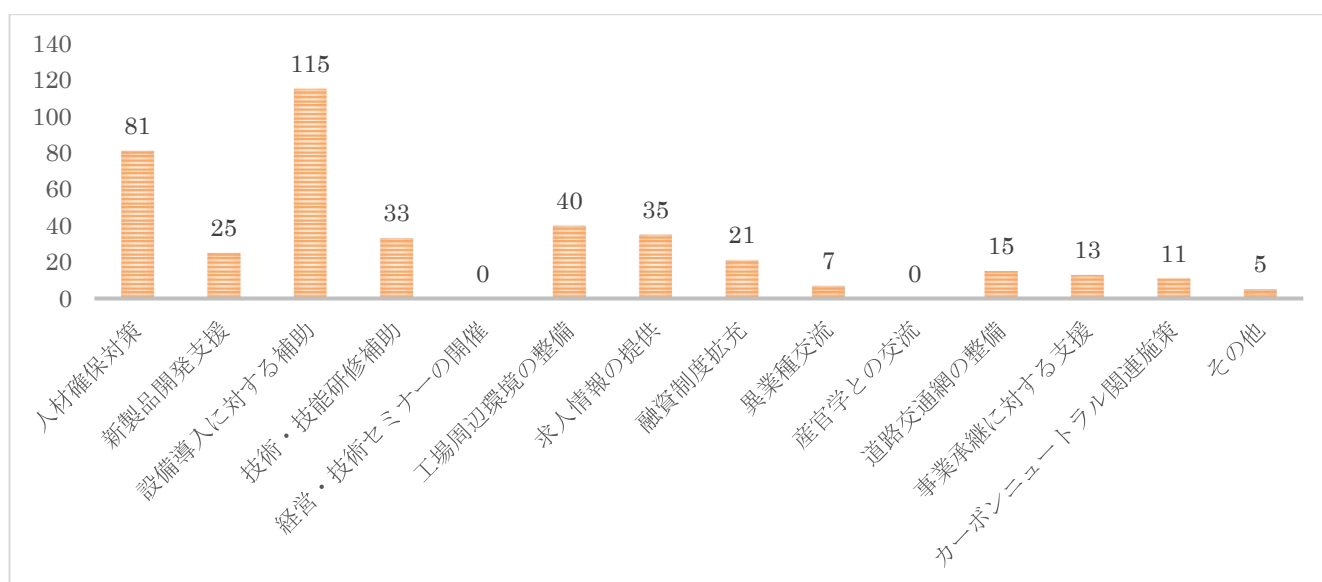
◎経営上の問題点は、「原材料高」が最多。次に「従業員高齢化」、従業員不足」「人材育成」「人件費増加」が挙げられた。

経営上の問題点は「原材料高」が74%と最も多く挙げられた。次いで、「従業員高齢化」が37%、「従業員不足」が36%、「人材育成」が33%、「人件費増加」が28%となっている。「原材料高」は74%(前年55%)と大幅に増加しており、コロナ禍及びロシア、ウクライナ状況による世界的な原油・原材料の価格が高騰していることが影響している。

中には、下請け業者の減少により調達コスト増、調達不可など深刻な問題を抱える事業者も一部ある。

★行政への要望（複数回答可）

※回答企業数 182



◎行政への要望は、「設備導入補助」「人材確保対策」。

行政への要望としては、「設備導入補助」が63%と最も多い要望となっており、生産設備の老朽化に伴う更新や省エネ・脱炭素設備への転換が企業に求められている状況である。

「人材確保対策」は例年多い要望であり、商工課内「みんなの就職サポートセンター」において、高校生・大学生等の市内企業への就職促進をはじめ、ハローワークと連携した求人对策支援を引き続き進めていく。